ISO14001 認証取得による環境への寄与 —高分子関連企業において—

御 船 直 人

1. はじめに

1996年に国際標準化機構(The International Organization for Standardization)により発行した国際規格 ISO 14001「環境マネジメントシステム—仕様および利用の手引」は、瞬く間に全世界に流布され、先進国ばかりでなく途上国においても認証取得が着実に増加している(04年10月現在, 129カ国, 約7.4万件)。日本では、当初, ISO 14001は、組織(企業、自治体、大学など)の環境保全活動への自主的な取組みの一モデルとして位置づけられていたが、行政からの認証取得要請や自治体による認証取得組織に対する各種優遇施策の新設、ISO14001認証取得によるグリーン購入法への対応などを背景に、具体的メリットが環境保全活動以外にも拡大してきている。これらの要因の結果、日本は世界最多(約1.7万件)のISO14001の認証取得国になっている。

本文では、ISO14001認証取得のさまざまな特徴を、とくに環境への寄与の観点から簡単に紹介する。

2. ISO14001 認証取得の効果

ISO14001は多様な効果を認証取得組織にもたらすことが明らかになってきている。本来の目的である環境負荷低減効果や環境保全活動に伴う社会的信用の向上などに加えて、昨今、とくに注目されているのが、経費節減効果、リスク低減効果および法規制に対する遵法性確保効果などである。

経費節減効果は、省資源・省エネルギーや廃棄物削減に対する取り組みの成果として必然的に発現し、行き詰まり感のある組織の経費節減施策に新たな方策を与えている。

地震、風水害、事故などに際し、常日頃から環境汚染などの緊急事態を想定し、予防策や緩和策などを構築することがISO14001の本来の意図であるが、しだいに、組織外からの犯罪行為や経営リスクなどの各種リスクへの対応策

としても活用され、組織にとって新たな安心を与える全般的リスク低減効果を生み出している。

現代社会において、組織が社会的責任を果たす観点からも遵法性確保はきわめて重要な課題となっている。環境関連の法規制は、規制緩和の社会的動向とは逆に、ますます強化され新設されている。これらの環境法規制に対する遵法性を担保する仕組みとしてのISO14001が、組織を取り巻くあらゆる法規制の遵法性確保に対してもきわめて有効に活用されている。

さらに、ISO14001の認証取得は、環境情報の開示、環境報告書の発行、環境会計の試算・公表、環境コミュニケーションの開始、さらにCSR(企業の社会的責任)対応手段へと進化し、透明かつ遵法した組織形態への変貌をリードするツールと認識されてきている。

3. ISO14001 認証取得の環境への寄与

上記のさまざまな、ISO14001認証取得効果の中で、本来の目的である環境負荷低減効果について従業員数約500名のS社(ゴム・プラスチック製品製造業)の実績を一例として簡単に紹介する。

S社は、98年頃よりISO14001の認証取得に向けた具体的な活動を開始し、99年に認証を取得した。活動を開始する以前の97年度に比較し2003年度では、コピー用紙の使用量は約40%削減(図1)、電力の使用量は約20%削減(図2)している。また、一般廃棄物や廃プラスチックの排出量は、集計を開始した年度より、それぞれ約50%削減(図3)、約15%削減(図4)している。一方、従来、廃棄物として処分されていた廃材・廃油などの再資源化を図ったリサイクル率は、2003年度には約65%にまで高まっている(図5)。これらの環境負荷低減効果は、総額約1,800万円/年度の経費節減効果として2003年度は環境会計されている。

S社の実績は特異な例ではなく、ISO14001に関する活動を実直に推進すると、ほぼすべての組織で同傾向の効果が現れる。とくに、高分子関連企業においてはコピー用紙の使用量、廃棄物量および上水の使用量などの削減は顕著である¹⁾。

MIFUNE, Naoto (財)鉄道総合研究所 ISO 審査登録センター (151-8578 東京都渋谷区代々木2-2-2)・センター長、工学博士。専門は高分子材料の疲労・劣化、高分子材料・複合材料の鉄道への応用、リサイクル技術、環境マネジメントシステム(ISO14001)に関する環境影響評価に関する研究ほか。

ISO14001 Effects on Environment

図1 コピー用紙の使用量の推移 (ISO14001 取得 S 社, 以下同)

図4 廃プラスチックの排出量の推移

図2 電力の使用量の推移

図5 廃材、廃油などのリサイクル率の推移

図3 一般廃棄物の排出量の推移

4. ISO14001 認証取得に伴うその他の効果

ISO14001 は、あらゆる文化圏・業種に適用されることを想定して構築されている。そのため、ISO14001 に関する取り組みは、日本ばかりでなく世界中でほぼ均質に行われることになる。したがって、取り組みに関する情報がスムーズに交流される状況になれば、自組織の取り組み状況を他国の同業種組織あるいは他業種と比較することが可能となる。そのための定量的な評価システムの開発も検討さ

れている¹⁾。

5. おわりに

本文では、ISO14001 の環境に寄与する効果について簡単に紹介した。温暖化ガス削減が国家の使命となり、また、CSR 等がクローズアップされるなど、環境問題がますます重要視される情勢を背景に ISO14001 の役割も大きく進化してくると予測される。しかし、ISO14001 に取り組むことの本当の意義は、思想も文化も異なる世界の国々が、なぜ同一ルールで活動できるのか、そのメカニズムを理解することにあると思われる。そして、将来、日本が世界をリードする役目を積極的に担う際のヒントを修得できることが、ISO14001 認証取得の重要な効果だと筆者は認識している。

文 献

- 1) A. Uehara, H. Nozawa, N. Mifune: *J. Adv. Sci.*, 13, 211 (2001)